

史跡案内(新原。今在家地区)

古賀史跡案内ボランティア

平成15年08月01日

I 新原・今在家地区史跡めぐりコース

(新原)若宮八幡宮 A →浄土院 B →須賀神社 C →乳池観音堂 D →文殊菩薩堂 E →
(今在家)若八幡宮 F

II 新原周辺

1. 若宮八幡宮(新原)【A】

- ① 祭神： 応神天皇・神功皇后・仁徳天皇
- ② 由緒： 不詳。旧村社
- ③ 鳥居： 天保9年戊戌(1833。)銘。灯籠(享保11年—1726か、判読困難)
- ④ 境内社： 天神社、愛宕神社、五穀神社、貴布禰神社、宇多神社

2. 浄土院(新原)【B】

- ① 宗派・本尊： 宗派)浄土宗鎮西派。本尊)阿弥陀如来山号)安樂山。
- ② 縁起： 住吉村妙圓寺の末。天文年中(1532～1355)安部太郎左衛門秀光・安武(武藤)藤左衛門重綱二人の開基。開山は念善行明上人という
- ③ 札所： 所属の仏堂に13番十一面観音堂、15番薬師堂などがある。

3. 須賀神社(新原)【C】

- ① 祭神： 素戔鳴神
- ② 由緒： 不詳
- ④ 灯籠： 天保らしき年号が見えるが判読困難

4. 乳池観音堂【D】

- ① 新原中の坪697あり。
- ② 由緒によれば、聖武天皇の天平11年、行基が太宰府下向の折り観音像を刻み、伝教大師により堂宇を造営されたが天平14年兵火により焼失。その後村民により堂宇を再興す。

- ③ 昭和初年の台風により老松倒壊し堂宇破壊、浄土院境内に尊像を移した。昭和33年に堂宇を再建し尊像を安置す。
- ④ 現尊像は十一面觀音6尺立像にして胸中に1寸8分の像を納むという。(前住職の話では体内仏はなかった、と)
- ⑤ 堂宇の前に川あり、乳池と呼び、この溝をさらえて祈願すれば育児の母乳を授かり靈験あらたかになるにより古来より遠近の参詣者多し。
- ⑥ 続 風土記附録によれば堂宇の前、周り1丈1尺の地を御影松と称し、その昔神功皇后松ノ木の元、このところにて踞(うずくま)りたまうと伝説を残しおれり、と。

5. 文殊菩薩堂【E】

- ① 浄土院所属。

III 今在家周辺

1. 若宮八幡宮(今在家)【F】

- ① 祭神： 応神天皇(青柳村誌によれば仁徳天皇)
- ② 由緒： 明治5年村社。社内に天満宮猿社があり、猿を殺し、祟ったので社を建て祀ったといわれる。
- ③ 絵馬： 文政8年(1825)神功皇后伝絵など5点
- ④ 境内社： 貴布祢神社